

タイの宅配サービス



内容

- 概要
- 市場の主要プレイヤー
- 宅配サービス事業者の競争戦略
- トrendと機会
- 関連規制
- まとめ

タイの宅配サービス

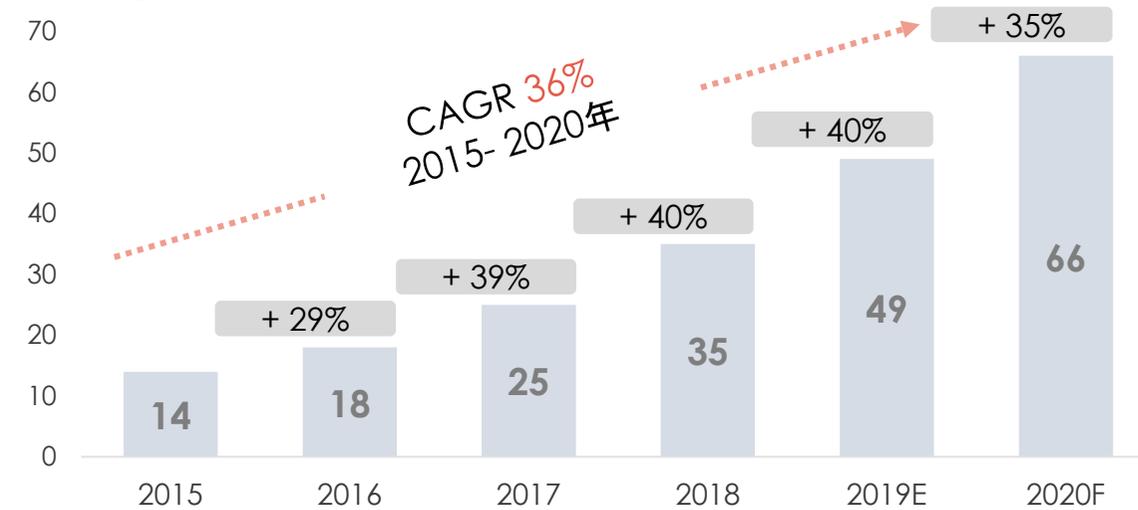
概要 (1)

タイの宅配サービスについて

- 宅配サービスは多くのビジネス活動に不可欠なものである。タイの宅配サービスは着実に成長しており、年々大きな役割を果たすようになっている。
- タイの宅配サービス市場は、2018年から2年連続で前年比で40%成長した。SCB EIC(サイアム商業銀行傘下の調査センター)は、オンラインショッピングの増加を主な要因として、2020年には市場が前年比で約35%成長し、1日当たりの宅配便の取扱個数が400万個に達するだろうと予測している。
- 2020年に新型コロナウイルス感染症が流行し、その対策としてソーシャル・ディスタンス(社会的距離)を保つことが習慣化しつつある。この状況は、Eコマース(電子商取引)を後押しする見込みで、宅配サービス市場の成長についての予測は現在の数値から上方修正される可能性が高い。

タイの宅配サービス市場規模推移(2015~2020)

単位: 10億バーツ



タイの宅配サービス市場規模は、2015年の140億バーツから2019年には490億バーツに成長した。2015~2020年の年平均成長率(CAGR)は36%となり、2020年には660億バーツに達すると予想されている

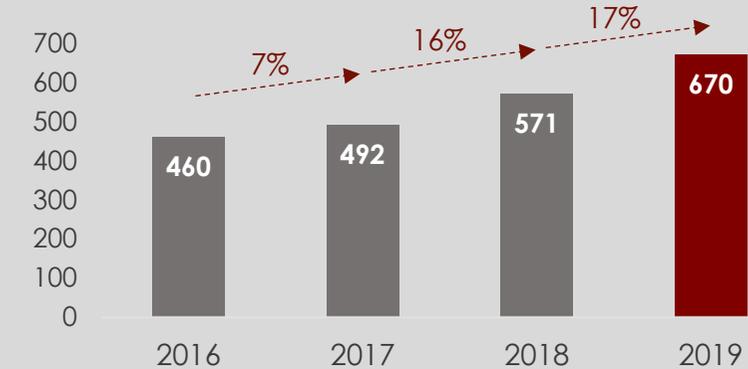
出所: Enliteのデータに基づくEICの分析

注: タイの宅配サービス会社約22社のデータに基づいて算定されている
E = 推計、F = 予想

宅配・郵便事業者の登録社数

(2020年3月19日現在)

単位: 社



タイ商務省のデータベースによると、2019年のタイの宅配・郵便事業者の登録社数は、前年比17%増の670社となっている

出所: タイ商務省のデータベース

注: 上記グラフの数値には、TSICコード53100および53200(これら2つのTSICコードで宅配サービスを行う事業者)として登録された事業者のみが含まれている

53100: 郵便活動

53200: 宅配便活動

TSIC: タイ標準産業分類(2009年)

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものです。弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分: SC-B

タイの宅配サービス

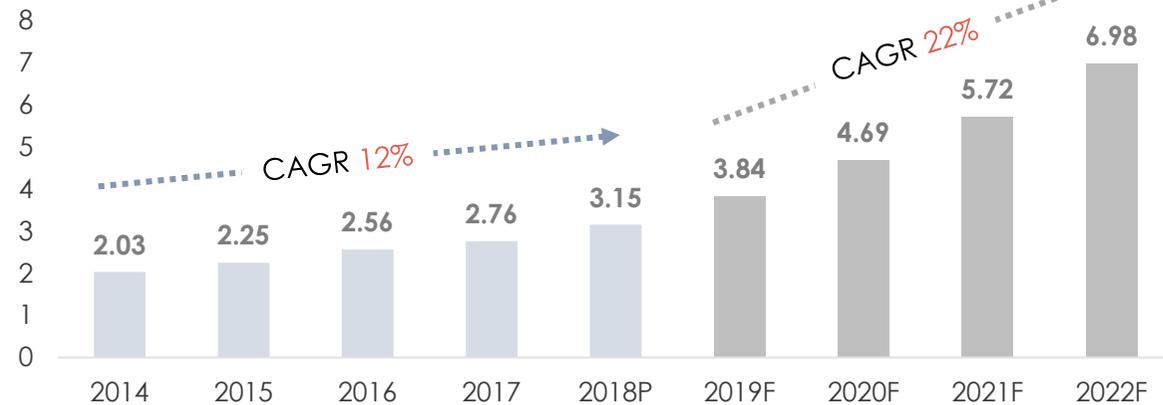
概要 (2)

Eコマースが宅配サービス業界に与える影響

- 電子商取引開発局(ETDA)のレポートによると、タイのEコマース(電子商取引)市場の2014年から2018年にかけての年平均成長率は12%で、2014年の2.03兆パーツから2018年には約3.15兆パーツに成長した。タイの主要な価格比較プラットフォームであるPricezaは、2019年から2022年にかけてEコマース市場は年平均成長率22%で拡大すると予測している。

タイのEコマース市場規模推移(2014年~2022年)

単位: 1兆パーツ



出所: 電子商取引開発局、Priceza

注: P = 見込み、F = 予想、図にはB2B、B2C、B2Gが含まれる

- タイのEコマースは、インターネットの利用増加とオンライン市場への中国製品の流入により、絶えず進化し拡大している

インターネット
の利用

電子商取引開発局によると、2018年にタイ人は1日平均10時間5分をインターネットに費やした。上位5つのオンライン活動の中でオンラインショッピングに費やされる時間が最も長かった

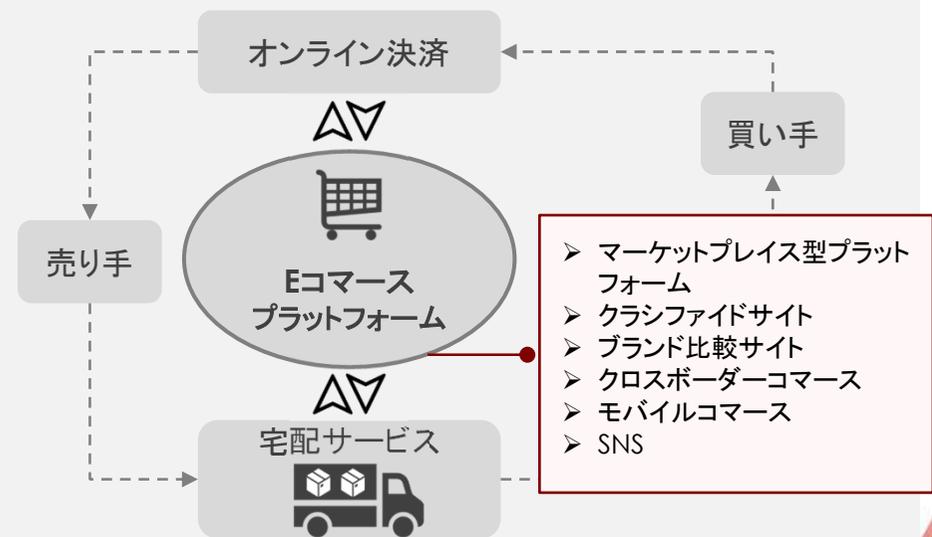
中国製品

中国製品の流入はタイのEコマース市場の急速な拡大につながった

Eコマース → 宅配サービス

宅配サービス、Eコマースともに市場成長の見通しは明るい

- 宅配サービスはEコマース事業における主要なプロセスであるためEコマースの成長は宅配サービス事業の拡大をもたらす。この状況が新規プレイヤーの市場参入を促し、サービスの多様化や品質向上ひいてはEコマース事業の利益拡大をもたらしている
- 従って、急成長中のEコマースは、宅配サービスにとっての大きな推進力となる一方、宅配サービスもEコマースの成長の支えとなる



本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものです。弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

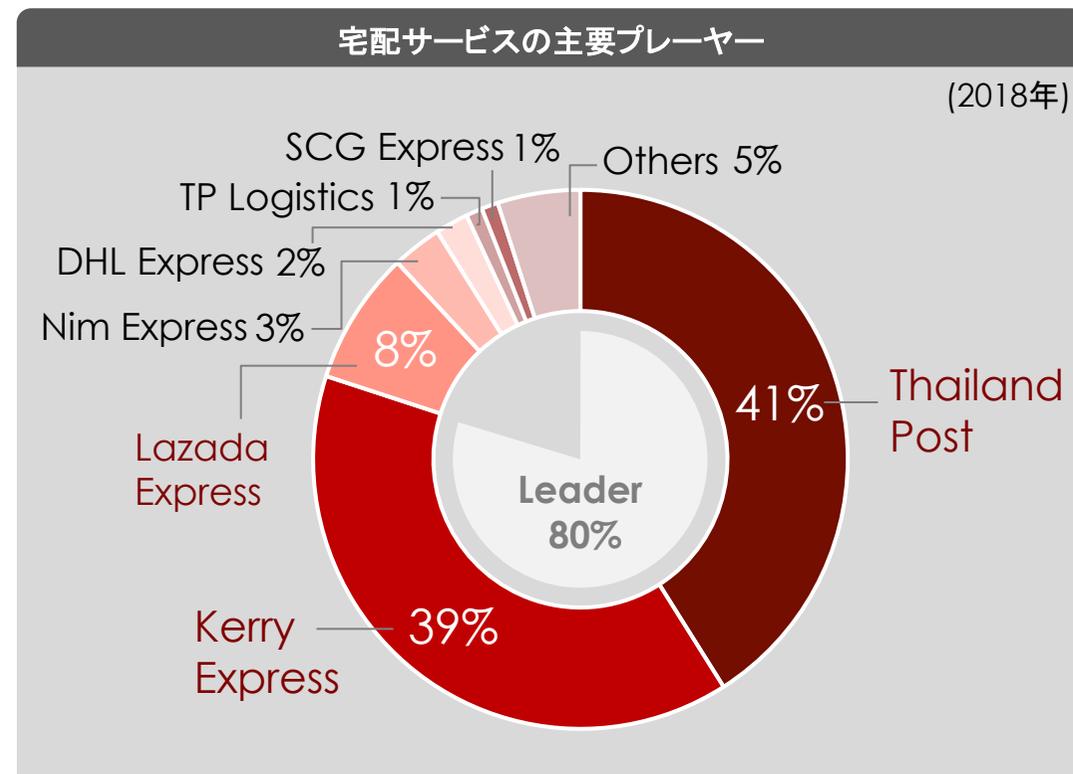
© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分: SC-B

タイの宅配サービス

市場の主要プレイヤー (1)

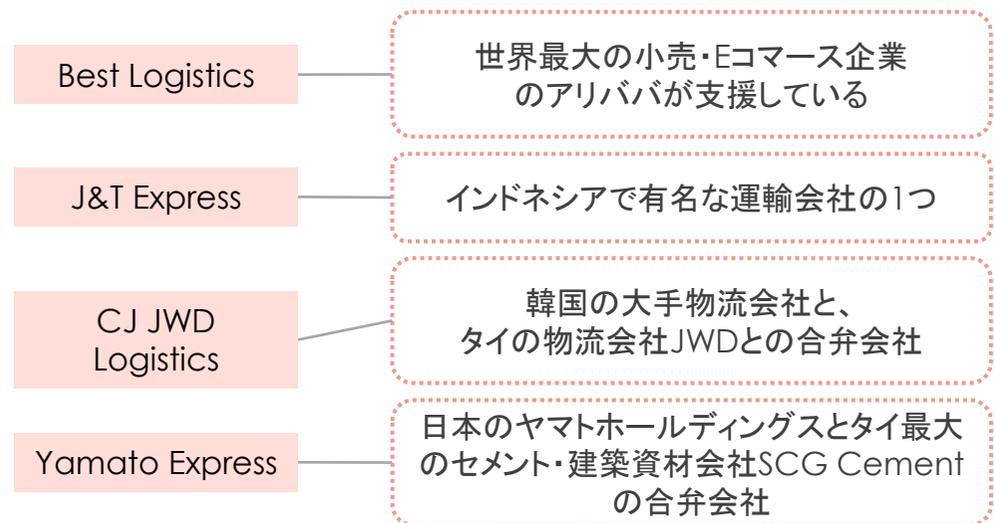
■ タイの主要な宅配サービス事業者

- 宅配サービス市場は、Thailand Post (41%)とKerry Express(39%)の2社が席捲しており、2社のみを併せたシェアで市場全体の約80%を占めている。
- Best Logistics、J&T Express、CJ JWD Logistics、ヤマトホールディングスなど外資大手が、数年前からタイ宅配サービス市場への出資を開始した。
- さらに、現在タイで人気のあるGrab Express、Lineman、Lalamoveなどのオンラインアプリを介したオンデマンド配送サービスを提供する事業者も存在する。



出所: Enliteのデータに基づくEIC分析
注: 数値は、タイの宅配会社約22社を合算したものである

タイの外資系宅配サービス事業者



オンデマンド配送を行う主要オンラインプラットフォーム

オンデマンド配送

Grab Express Line Man Lalamove
Skootar Deliveriee

出所: SCB EICの情報および各種報道をもとにYCGが作成

市場の主要プレイヤー (2)

タイの主要な宅配サービス事業者の詳細

#	会社名	登録日	国籍		最低サービス料	強み
1	Thailand Post	2003	タイ	100%	25 パーツ	<ul style="list-style-type: none"> 国営企業であり、政府機関と提携している 長年にわたる宅配サービス事業の経験と顧客との良好な関係を有し、全ての県にサービス拠点がある
2	Kerry Express	2014	タイ	100%	30 パーツ	<ul style="list-style-type: none"> 全ての県にサービス拠点があり、バンコクの70カ所以上には24時間の置配ロッカーも備えているため、顧客がアクセスしやすい
3	Lazada Express	2015	タイ	100%	29 パーツ	<ul style="list-style-type: none"> タイの主要Eコマースプラットフォーム企業のLazadaが運営・所有する配送ネットワーク
4	Line Man ^{1/}	2019	タイ シンガポール	50% 50%	40 パーツ	<ul style="list-style-type: none"> アプリを介してオンデマンドサービスを24時間提供。平均50分で配達する LalamoveやNinja Vanなど他社とビジネスネットワークを共有している
5	CJ Logistics	2004	タイ シンガポール	51% 49%	45 パーツ	<ul style="list-style-type: none"> 高度なロジスティクスITシステムと高水準の倉庫管理により、ワンストップで全国に荷物を配送
6	Grab Express ^{2/}	2013	タイ ケイマン諸島	75% 25%	40 パーツ	<ul style="list-style-type: none"> アプリを介して集荷し30分以内に配達する 様々な車両を活用してオンデマンド配送サービスを提供
7	Lalamove	2014	タイ イギリス領 バージン諸島	51% 49%	48 パーツ	<ul style="list-style-type: none"> 24時間年中無休でオンデマンドサービスを提供。様々な車両を活用して1時間以内に配達する Line Manと提携し配達ドライバーを共有している
8	Nim Express	2012	タイ	100%	50 パーツ	<ul style="list-style-type: none"> 宅配サービスの経験が長く、地方部に強い タイ全域に配送センターがある
9	DHL Express	1990	タイ オランダ	51% 49%	40 パーツ	<ul style="list-style-type: none"> 国際配送と宅配サービスのスペシャリスト グローバルネットワークを持ち、顧客に様々な宅配サービスを提供
10	Flash Express	2017	タイ	100%	25 パーツ	<ul style="list-style-type: none"> 週末や祝祭日にも宅配サービスを行うようになったタイで初めての会社
11	Best Logistics	2018	タイ 中国	51% 49%	30 パーツ	<ul style="list-style-type: none"> 中国の上位20社と共同投資するBest Groupの傘下にあるため、中国との関係が強い フランチャイズモデルを採用しており、提携している国内業者がラストマイルデリバリーを行う
12	J&T Express	2018	タイ 香港 中国	51% 48% 1%	19 パーツ	<ul style="list-style-type: none"> 年中無休で効率的で安全なサービスを提供。広範なネットワークにより全国どこへでも24時間以内に配達できる

注: ^{1/} Line Manは2016年に事業を開始したが、会社登録は2019年^{2/} Grab Expressは2018年に宅配便事業を開始したが、会社登録は2013年

出所: 会社ホームページ、各種報道、BOLデータベース(コーパス)をもとにYCGが作成

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものです。弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分: SC-B

タイの宅配サービス

市場の主要プレーヤー (3)

タイの主要宅配サービス企業の詳細

#	会社名	正式法人名	業績数値 (単位: パーツ)*					主要株主名
			総収入	営業利益	総資産	純資産	年度	
1	Thailand Post	Thailand Post Co., Ltd.	29,298,317,058	4,498,751,284	31,052,971,206	21,861,771,279	2018	タイ財務省 (タイ 100%)
	Kerry Express**	Kerry Express (Thailand) Co., Ltd.	19,894,603,292	1,563,619,245	6,014,206,799	2,233,162,272	2019	KLN Logistics (Thailand) Co., Ltd. VGI Public Co., Ltd. (タイ 63%) (タイ 23%)
3	Lazada Express	Lazada Express Co., Ltd.	4,684,824,699	-771,512,662	1,959,919,101	-1,021,456,453	2019	Lazada Express Holding Co., Ltd. (タイ 99.9%)
4	Line Man	Line Man (Thailand) Co., Ltd.	49,920,319	-157,247,263	333,523,975	-137,247,263	2018	LINE Company (Thailand) Ltd. LINE Man Corporation Pte. Ltd. (タイ 50%) (シンガポール 50%)
5	CJ Logistics	CJ Logistics (Thailand) Co., Ltd.	1,230,548,547	-190,097,110	1,213,288,454	-41,143,798	2018	CJ Logistics Asia Pte Ltd. JL Holdings (Thailand) Co., Ltd. JL Transport (Thailand) Co., Ltd. (シンガポール 49%) (タイ 25%) (タイ 25%)
6	Grab Express	Grabtaxi (Thailand) Co., Ltd.	1,159,233,358	-759,328,824	595,464,625	-2,819,665,608	2018	GrabTaxi Holdings (Thailand) Co., Ltd Grab Inc. (タイ 75%) (ケイマン諸島 25%)
7	Lalamove	Lalamove Easyvan (Thailand) Co., Ltd.	1,060,514,330	-89,354,449	88,270,133	-52,834,926	2018	Lalamove Holding (Thailand) Co., Ltd. Lalamove (Thailand) Ltd. (タイ 51%) (英領バージン諸島 49%)
8	Nim Express	Nim Express Co., Ltd.	997,315,201	947,756,810	1,098,631,449	349,110,112	2018	Mr. Chatchai Suwitsakdanon Dr. Pranee Suwitsakdanon (タイ 69%) (タイ 30%)
9	DHL Express	DHL Express (Thailand) Ltd.	638,642,804	608,822,804	499,979,098	309,308,822	2019	Watthanothai Co., Ltd. Deutsche Post International B.V. (タイ 50%) (オランダ 49%)
10	Flash Express	Flash Express Co., Ltd.	46,513,484	-183,860,440	122,538,381	-106,542,857	2018	Mr. Khomson Saelee (タイ 99.9%)
11	Best Logistics	Best Logistics Technology (Thailand) Co., Ltd.	24,129,141	-9,591,500	91,698,893	39,594,328	2018	BGL International Logistics (Thailand) Co., Ltd Best Asia Management Ltd. (タイ 51%) (香港 49%)
12	J&T Express	Global Jet Express (Thailand) Co., Ltd.	10,441	-29,543,783	335,550,679	26,806,839	2018	Mr. Charoon Wiriyaophonphiphat Winning Star Holding Ltd. (タイ 51%) (香港 48%)

注: *上記業績数値は、宅配事業以外の収入を含む場合もある

**Kerryは、2020年2月24日に社名をKerry Express (Thailand) Public Co., Ltd.に変更した

出所: BOLデータベース(コーパス)、タイ商務省のデータベース

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものでありますが、弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分: SC-B

タイの宅配サービス

市場の主要プレイヤー (4)

タイで提供されるサービス

タイの配送会社が提供するサービスは、主に、即日、翌日、週末対応、ドア・ツー・ドアサービス、および現在需要の高いオンデマンド配送で構成されている。一部の事業者は、国内に加え国際配送サービスも提供している。

会社名	サービス					
	 即日	 翌日	 週末	 ドア・ツー・ドア	 オンデマンド	 航空輸送
1 Thailand Post	✓	✓	特定の地域	✓		✓ (DHL サービス)
2 Kerry Express	✓	✓	土曜日	✓		
3 Lazada Express		✓				
4 Line Man	✓		✓	✓	✓	
5 CJ Logistics	✓	✓		✓		
6 Grab Express	✓		✓	✓	✓	
7 Lalamove	✓		✓	✓	✓	
8 Nim Express		✓		✓		
9 DHL Express	✓	✓		✓	✓	✓
10 Flash Express		✓	✓	✓		
11 Best Logistics		✓				
12 J&T Express		✓	✓			

出所: 会社ホームページ、各種報道をもとにYCGが作成

注: タイで提供されるサービスの定義

- 即日: 荷物は1日以内に受取人に届く
- 翌日: 荷物は翌日受取人に届く

- 週末: 週末(土曜・日曜)に集荷、配達する
- ドアツードア: 集荷先住所で集荷し、配達先住所に配達する
- オンデマンド: 荷物はすぐに集荷され、直接受取人に配達される
- 航空輸送: 最短の時間で目的地に届ける航空輸送

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものです。弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分: SC-B

宅配サービス事業者の競争戦略 (1)

競争戦略

宅配サービス事業者は、競争の激しい市場で生き残り、成功するためにいくつかの戦略を駆使している。主要な戦略としては、ビジネスパートナーシップの構築、サービス拠点の拡大、サービスの差別化、配送精度の向上、システム開発などがある。

ビジネスパートナーシップ

▶ Eコマースプラットフォームとのパートナーシップ

宅配便の取扱量を増やすために、Lazadaなどのオンラインでマーケットプレイスを運営するEコマースの企業と提携する

例えば:

- ✓ Kerry LogisticsはLazada(オンラインショッピングプラットフォーム)と提携しLazadaの商品を購入する顧客に対して他社より安い配送サービスを提供している。これによりKerry Logisticsは急成長した

▶ 他の宅配サービス事業者とのパートナーシップ サービス拡大のための事業者間ネットワーク



例えば:

- ✓ 2018年にThailand PostはDHL Expressと提携しCourier Postの名称で航空輸送サービスを提供している
- ✓ Kerry Expressは、航空会社や海運会社と緊密に連携し、40カ国以上を結ぶ強力な流通ネットワークを築いている

▶ 配送アグリゲーターとのパートナーシップ

配送アグリゲーターネットワークは、複数の物流会社とシステムを統一してネットワークを強化し、配送効率の向上をもたらしている

例えば:

- ✓ 多くの事業者が顧客のアクセス性を向上させるためにShippopのような配送アグリゲータープラットフォームに参加している

サービス拠点の拡大

顧客のアクセス性向上のため、サービス拠点数を増加



例えば:

- ✓ 2019年時点でThailand Postは全国に1万以上のサービス拠点(会社所有とパートナー所有を含む)を有する。また、Kerry Expressも同様である。

- ✓ Thailand PostとKerry Expressは、サービス拠点拡大のために店舗と提携している
- ✓ Best Logisticsはバンコク郊外のサービス拠点数増加を狙ってフランチャイズモデルを採用している

出所: 各種報道をもとにYCGが作成

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものです。弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分: SC-B

宅配サービス事業者の競争戦略 (2)

競争戦略

サービスの差別化

- ニッチ市場に注力
- ビジネス上の強みを強化



例えば:

- ✓ Thailand Post は、特大で扱いにくい荷物を全国に配送するサービスやドライブスルー郵便サービスを提供
- ✓ Lalamove は、顧客が集荷の日付、時刻、荷物の種類を選択して集荷の予約ができるサービスを提供
- ✓ Kerry Express と Flash Express は顧客の住所での集荷サービスを提供
- ✓ SCG Express は温度管理による宅配サービスを提供

配送、配送予測、配送状況追跡データの精度を向上

より正確に配送するために配送予測と配送状況追跡データの精度を向上



例えば:

- ✓ 主要な宅配事業者は、配送センターや配送追跡システムの精度向上のため、配送インフラを絶えず進化させている
- ✓ Kerry Expressは2019年には12カ所だった配送センターを今後500に拡大する計画で、2020年中に109カ所にする予定である

サービスの品質・スピード・料金

適切な料金で高品質なサービスを迅速に提供



例えば:

- ✓ 現在運ぶ荷物の価値が高額になっている状況を受けて、Kerry Express や Flash Express など一部の宅配サービス事業者は、自社の責任による紛失や損傷に対して配送1回あたり最大2,000パーツの保証をつけて、サービスの安全性と品質を確保している
- ✓ 2019年にKerry Expressは、利用者数の多いバンコクのBTSの4つの駅で超高速宅配サービス(3時間以内)を開始した
- ✓ J&T Express や Flash Expressなどの新規プレーヤーは、市場シェアを伸ばすために配送料を引き下げた

システム開発・研修

配送システム開発と従業員研修は、宅配事業者にとっての重要な課題



例えば:

- ✓ Thailand Postは顧客に最高のサービスを提供するため、効率的な標準システム(IT・セキュリティなど)を開発した
- ✓ Kerry Expressは顧客サービス向上のため、定期的に研修を実施している

出所: 各種報道をもとにYCGが作成

トレンドと機会

トレンド

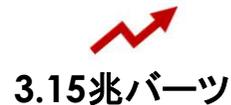
急成長する宅配便市場のトレンド

宅配便市場
年間平均成長率2015-2020年



タイの宅配便市場は、Eコマース市場の成長を主な要因として、継続的に拡大している

2018年のEコマース市場規模
継続的に成長



競争激化

Eコマース市場の急成長は、宅配サービス業界の競争激化をもたらした

✓ 料金:



過去数年にわたって宅配料金が低下していることからわかる通り、新規プレーヤーは「低料金」を市場シェア獲得の主な競争戦略としている

✓ サービス品質:



顧客ニーズに応えるために、次々に新しいサービスが生まれている。このことから、先端技術の活用によって、今後さらなる利便性の向上、配送コスト削減、時間短縮がもたらされることが予想される

協業の拡大

料金・サービス競争力の強化、事業拡大のための資本力増強のため、今後宅配サービス事業者と関連事業者間の協業がさらに拡大することが予想される

機会

関連事業にとっての機会

宅配サービス業界の成長は他事業の成長にもつながり、関連事業者にとっては絶好の機会となる

✓ 配送アグリゲーターサービス



✓ 倉庫管理



✓ 荷物の持ち込み・受取サービス



✓ ソフトウェア開発



先端技術への投資

宅配サービス事業には高度な技術やビッグデータが必要だが、これまでのところ関連投資はごく一部の企業にしか行われていない。従って、宅配サービスのさらなるサービス効率向上をもたらすことが可能なテクノロジープロバイダー、ビッグデータ管理、人工知能(AI)などの会社にとっての事業機会となっている。

✓ 包装ロボットを備えたスマート倉庫



✓ 倉庫内移動用の自律型車両



✓ ドローンによる遠隔地域への配送



出所: 各種報道をもとにYCGが作成

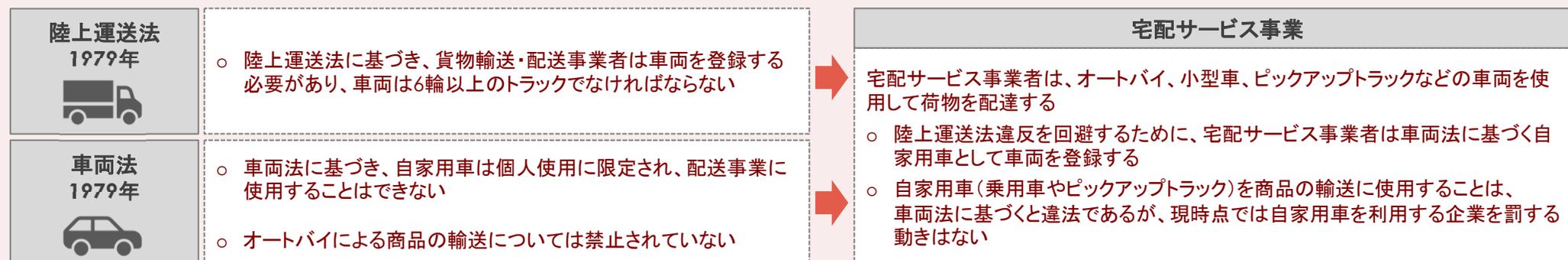
関連規制

外国人事業法 (1999年)

- 外国人事業法により、外資が過半の企業が物流や宅配を含むサービス事業を行うことには制限が課されている。
- 従って、外国企業がタイで宅配サービス事業を行う場合は、商務省から外国事業免許(FBL)を取得するか、タイ企業と提携して、タイ資本が過半の合弁会社を設立する必要がある。(外国企業持株比率の上限は49%)

宅配サービス事業に関する規制

- 現在、タイには宅配サービス事業を規制する特定の法律はない。最も関連性の高い法律は、1979年の陸上運送法と1979年の車両法である。しかし、これらの法律は実際には宅配事業に適用されていない。



- タイでの宅配サービス事業の急速な拡大により、政府は同事業を規制するための法律制定の必要に迫られる可能性がある。宅配サービス事業の成長が続けば、今後検討されることになるだろう。

宅配サービス事業を管理するための措置

- 2019年、陸運省が宅配サービス事業者を管理するための措置を発表した。主な目的は、違法な荷物、特に麻薬の密輸を防ぐことである
- 宅配事業者はサービスを提供する場所に監視カメラを設置し、調査プロセスが問題なく進められるよう顧客の情報、名前、国民番号を180日以上記録し保管する必要がある
- 適切な検査・スクリーニングの措置がとられなかったこと、または麻薬が密輸されてしまったことが判明した場合、当該事業者は最大5万バーツの罰金および/または最長5年の懲役などの重い罰則が課される可能性がある

出所: 各種報道をもとにYCGが作成

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したもので、弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分: SC-B

まとめ

- タイの宅配サービス市場は現在たった2社による独占状態である。具体的には、業歴の長い国営企業のThailand Postと急成長中の香港発の民間企業であるKerry Expressである。一方、市場が過去数年間で急速な成長を遂げたため、新規プレーヤーの市場参入が相次いでいる。
- 新型コロナウイルス感染症の流行とソーシャル・ディスタンス(社会的距離)維持の習慣化によって、Eコマース市場の継続的な成長はさらに加速しつつあり、これにより今後宅配サービスおよびその関連事業にさらに大きな成長余地をもたらすものと予想される。
- 市場に新規参入する場合には、参入前に、資本力、国際ネットワーク、技術的優位性をすでに備えている必要がある。加えて、外資規制があるため、タイ国内での会社の設立を支援してくれる現地パートナーを見つける必要もある。
- さらに、顧客ニーズの変化、技術進化、規制の変更など、その他の重要な変化に迅速に対応する必要もある。

ご留意事項

- 本資料は、貴社内においてサービス利用の判断の参考となる情報提供を目的として作成されたものであり、取引又はコンサルティングサービスの契約・申し込みを行うものではありません。
- 弊社を含むいかなる者も、本資料に含まれる情報の正確性、完全性、妥当性を保証するものではなく、また本資料に含まれる情報をもたらす一切の影響について責任を負うものではありません。
- 本資料に含まれる情報の一切の権利は弊社に帰属するものであり、弊社の承諾なしに無断での複製、貴社外でのご利用及び第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

お問い合わせ先



山田コンサルティンググループ株式会社